

聳島に移送したアホウドリのヒナの巣立ちについて

環境省自然環境局 同時発表

平成 23 年 5 月 13 日(金)
(財)山階鳥類研究所

小笠原群島聳島におけるアホウドリの新繁殖地形成事業として、今年2月8日に伊豆諸島鳥島から聳島までヘリコプターで移送したアホウドリのヒナ15羽のうち2羽が昨日(5月12日)の午前9時30分-10時の間に、聳島の飼育サイトより巣立ちましたので、お知らせいたします。

移送したヒナ15羽は移送後約3か月間、(財)山階鳥類研究所の職員から給餌を受け、成長。そのうち2羽が、昨日9時30分~10時の間に、聳島北西端の飼育サイトより巣立ちました。その後13:20 船上から海上に浮かんでいる巣立った2羽を発見・確認しました。位置は聳島の北側岸から約500mで、飼育サイトからは約1.5キロ。

今後残りのヒナについても、順に巣立ち、巣立ち後は、過去の例から北太平洋のアリューシャン列島やベーリング海域まで渡っていくものと予想されます。

なお、4月30日に、飼育サイトから1羽が姿を消しておりますが、正常な巣立ちとしては早すぎると考えております。

※この事業は、(財)山階鳥類研究所が、環境省、米国魚類野生生物局、三井物産環境基金、公益信託サントリー世界愛鳥基金等の支援を得て実施しているものです。

● 巣立ったヒナについて

- ・ 性別：雄。カラーリング(赤地に白 Y54)、金属足環 13C8354、発信器の装着 なし
- ・ 性別：雌。カラーリング(赤地に白 Y56)、金属足環 13C8356、発信器の装着 あり

● 姿を消したヒナについて

4月30日に飼育サイトから1羽(Y50)が姿を消したが、正常な巣立ちには早すぎると考えられる。

● これまでの経過

<平成19年>

3~6月 近縁種のクロアシアホウドリによる飼育実験を実施。

<平成20年>

2月19日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ10羽をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

5月25日 移送したヒナ全10羽が巣立ち。

6月30日 発信器装着個体のうち4羽がアリューシャン列島海域に到達。

<平成21年>

2月5日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽を、小笠原群島聳島まで移送。

5月11日 ヒナ1羽が巣立ち。

5月25日 移送したヒナ全15羽が巣立ち。

10月12日 米国カリフォルニア州サンフランシスコで確認。

<平成22年>

2月8日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽を、小笠原群島聳島まで移送。

↓ (山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。)

5月18日 ヒナ1羽が巣立ち。

5月29日 移送したヒナ全15羽が巣立ち。

<平成23年>

2月8日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽を、小笠原群島聳島まで移送。

↓ (山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。)

2月10日 平成20年に巣立ちしたヒナ(3歳、雄)の聳島への帰還を確認。

5月12日 ヒナ2羽が巣立ち。



巣立ちの3日前のY56 2010年5月9日



巣立ち後、海上で羽ばたきの練習をするY56
(5月12日)



羽ばたきの練習をする幼鳥 (5月9日)
右手前はデコイ(模型)



巣立ち後、海上で羽ばたきの練習をするY54
(5月12日)

※上掲の写真（デジタルデータ）をご希望の方は下記までご連絡ください。

(財) 山階鳥類研究所 (270-1145 我孫子市高野山 115)
広報担当 平岡考
電話 : 04-7187-1101、Fax : 04-7182-1106、メール : hiraoka@yamashina.or.jp